

東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター 通信

第88号 2020年1月

目	次
巻頭図版「洛外名所図屏風 北川家本」(部分) 史料編纂所「摺物データベース」のデータ追加 と東京大学総合図書館所蔵『拈拾帖』電子展示 との連携等について (鶴田 啓) ……2	新たな字形連携データベースの構築について (井上 聡) …… 6
国立台湾美術館における「2019 International photograph conservation conference」の紹介 (谷 昭佳) ……4	近世北野社の一視角 —「洛外名所図屏風 北川家本」の紹介 (西山 剛) …… 8
	文献案内 ……17
	画像史料関係文献目録 ……19
	活動抄録 ……20



「洛外名所図屏風 北川家本」(個人蔵)における相撲場面

近年公開された「洛外名所図屏風 北川家本」(個人蔵)は、一隻の中に金閣寺・大徳寺・龍安寺・嵯峨釈迦堂など、洛西の名所を配置する。なかでも特徴的なのは中央に北野社とその社頭がとりわけ大きく描かれていることである。

ここに描かれる北野社は、影響の松・右近の馬場・社殿、そして摂末社などが具体的に捉えられている。この点から本作は、北野社頭図の性格を含んだ洛外名所図と位置付けることができる。

社頭の一部である北野経王堂には相撲の場面が配置される。他の類例の経王堂には群踊や宴会の場面が描かれることが多いが、なぜ本作では相撲がとりあわされるのか。北野社と相撲との歴史も含め、今号ではその意味も考えたい。

(西山 剛, 13 頁参照)